＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

事業所番号	4676100169
法人名	有限会社　ふれあい企画
事業所名	グループホームふれあい
訪問調査日	平成 20 年 3 月 15 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	4676100169
法人名	有限会社 ふれあい企画
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	鹿児島県霧島市隼人町小浜3070 (電 話) 0995－43－0716

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年3月15日	評価確定日	平成20年4月23日

【情報提供票より】 平成20年2月5日現在)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年3月30日	
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計 36 人
職員数	35 人	常勤 20 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 32.25 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋3階建て1棟 ・ 鉄筋2階建て1棟 ・ 木造平屋建て1棟 造り
	3棟 建ての 1 階 ～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30000円 (光熱費込み)	その他の経費 (月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 円	昼食	円
	夕食 円	おやつ	円
	または1日当たり 955 円		

(4) 利用者の概要 (2月5日現在)

利用者人数		35 名	男性	12 名	女性 23 名
要介護1		5 名	要介護2	13 名	
要介護3		8 名	要介護4	7 名	
要介護5		2 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	86.8 歳	最低	72 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳重クリニック・大井病院・隼人温泉病院・加治木温泉病院・桐原歯科医院・おばた泌尿器

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

到着すると加治木の町並みや錦江湾に浮かぶ桜島が一望できる素晴らしい場所で、広い敷地にそれぞれ居住の持ち味を活かした4ユニットと特定施設入居者介護、認知症対応型通所施設が混設する平屋棟、2階建て、3階建てが存在する。ホームの代表者(管理者)は病院施設に勤務する中で、介護される立場の身になっての介護をめざしソーシャルワーカーの資格を取り、民家を借りて介護保険が始まる前から託老所を開設した。これが出発点であり介護専門型有料老人ホームやグループホームの開設にまで発展し、この度小規模多機能施設を設立され常に時代のニーズにそった考えの持ち主である。職員も管理者の理念である「人格を尊重したケア」「その人らしく生きる生活の援助」を共有し、現場での取り組みを頑張っている素晴らしいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4)

前年度外部評価での改善課題は唯一運営理念を重要事項説明書に明記されるよう求められていたが、記入はなされていない。

今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)

各ユニットに於いて介護支援専門員、主任が主体となりミーティングでスタッフと一緒に話し合いながら作成している。自己評価に取り組むことで日々のケアのあり方の理解や、意識の持ち方を再認識する良い機会と前向きに捉えている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)

運営推進会議では主に、4ユニットからそれぞれの行事、ヒヤリハット等報告している。又家族会のアンケートについての話し合い。夏祭りの協力のお願い等その都度討議内容を持ち込んでいる。質疑応答をしながら午前中1時間半で終了し、討議されたことを活かし、運営に反映させている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)

家族の意見を聞く目的で苦情相談箱を玄関に設置しているが意見は無い。年2回の家族会を設けているが年々参加者が減る傾向にあり意見もあまり出ない。面会家族も決まった家族が訪れる傾向があり、便りで呼びかけをしている。あまり意見は無いが意見や相談、苦情があればその対応の仕組みはある。

重点項目④

日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)

ホームの周辺は畑が多く住宅は極めて少ない所であるが、散歩に出かけて顔見知りになっている。野菜の差し入れがあったり、ホームのトイレ使用等交流している。民生委員や町民館長の出入りで地域行事を知り初午祭、夏祭りへ参加をしている。又ホーム側行事の花見、夏祭りにも民生委員、老人会から参加がある。

2. 評 価 結 果 (詳細)

(▒ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所はホームの理念を基本とし、更に各ユニットでの理念を掲げている。地域密着型サービスに移行してから地域住民とのふれあいを意識できるよう、各ユニットが独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットには理念が掲示され、毎日の申し送りや毎週の合同朝礼にて、理念の唱和をしている。又月一回の全体集会では管理者が事業所の理念について、実践につながる具体的な話をされ、職員も日々の業務に於いて理念を意識しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の初午際、夏祭り、文化祭に参加し、又ホーム側行事の花見、夏祭りには地域の人も参加している。近隣の散歩で顔馴染みもでき、野菜の差し入れがあったり、ホームのトイレ使用を呼びかけたりしている。更に地域への理解を広げたい取り組みとして地域で認知症の勉強会の開催を考えている。	○	事業所の専門知識を活かし、地域の人に認知症のことを理解してもらい地域の中で認知症の人が安心して暮らせるように職員が自治会や老人会などで認知症の勉強会を取り組みたいと希望されていることを是非実現され、今後地域との交流がより深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットのケアマネ、主任が中心となりスタッフとかかわりながら、作成に取り組んでいる。評価を一緒に取り組むことで職員の意識、ケアのあり方の再認識となることを理解され活用されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議は定期的に開催されている。主に事業所側からの行事、生活報告が見受けられる。ヒヤリハットや今後の運営相談等話し合い、意見を持ち帰り活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	霧島市主催の健康福祉祭、認知症研修会に参加している。市町村の窓口は非常に忙しいのが現状であるが、その中に於いて申請や運営サービス課題の相談をしている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には年に2～3回全体の便りを発行し、毎月一人ひとりに、健康状態、行事報告、生活状況、職員異動の知らせ、ホームへの訪問の呼びかけ等職員記名で便りを書き親近感を持っていただけるよう配慮したきめ細かな報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を求める家族会は年2回各ユニットのケアマネの参加で開催している。年々参加者が減少するので、家族会のアンケート調査中であり参加の増加に向けて努力されている。意見箱の設置をする等対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	重度の多い棟では知識の無い職員は自信をなくし離職する傾向がある。異動や離職は出来るだけ避けたいとするもやむを得ず変わる場合利用者へのダメージに配慮しスタッフの重複した勤務日程を設けている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人マニュアルが作成され新人教育は1～2ヶ月かけている。事業所では毎月一回全員参加で研修を開催している。研修項目は職員のアンケートで多かった意見を優先し基礎から技術まで勉強している。外部研修にも職員、パートを含め積極的に参加してホームで報告し全員が周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	姶良、伊佐地区グループホーム連絡協議会に加入し、勤務外の職員は出席して同業者との交流を図っている。相互研修会で他の事業所の意見や経験(地域のボランティアの活用のあり方、ターミナルケアについて等)を取り込み、活かしたことや今後活かしたいことも前向きに捉えている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は見学してもらいご家族と相談し本人が納得できる状況判断をして入居してもらっている。やむを得ず入居の場合は家族に訪問してもらうよう協力の呼びかけをしたり、宿泊してもらう備えもあり馴染める対応をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の流れの中で一緒に支えあい、本人の能力に応じた（農作物作り、行事の料理、昔からの菓子作り、綺麗な食事の配色等）手伝いをもらい、長年の経験の知識を教わりながら、一緒に出来たことを喜ぶ生活である。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生活、環境をアセスメントし、日常の会話や表情で意向、希望を把握し、家族の話等を参考にしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望を聞き、日頃の関わりから気付いた事やアイデアを記録し、日々のミーティングで話したり、月1回のカンファレンスで意見を出し合い利用者本位の介護計画を作成し、本人又はご家族に説明し同意をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティング時や3ヶ月毎にモニタリングをして、入居者に変化が無いか把握し、必要に応じ見直しをしている。急変の場合にも現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回の外泊支援をしている。誕生日は1対1で特別外食をしたり、その他散髪、通院に付き添う等の支援をしている。月2回の往診をすることで病気の早期発見をし、入院回避を図っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医への受診は家族と協力して受診している。複数の協力医を持ち定期往診をし主治医との連携を密にして適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで看取りはしていないが、今後に向けて看取りもする体制である。今後は入居と同時看取り介護についての同意書を作成してもらうようにし、看取りの対応手順、設備体制もできている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼び名への配慮、入室のマナー、トイレ誘導などあらゆる生活の中で言葉で傷つけないよう、ミーティングでプライバシーに関しての話し合いをし意識を高めている。又記録に利用者同士の会話はイニシャルを使用したり、ミーティングではアルファベットを使用して個人情報に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に捉われずその人の生活ペースを優先して、早起き買い物、散歩、お茶飲み、晩酌、畑仕事、趣味の囲碁、読書、テレビ、音楽と、本人の暮らし方を優先できるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週2日は利用者と献立を立て、買い物も一緒に出かける。手伝いのできる能力に応じ、下ごしらえ、盛り付け、味見、配膳、食事、片付けと職員と一緒に行っている。食前に本日の食材の現物を見ながら話をし、ウキウキする音楽で盛り上げて食事が始まると音量を下げ楽しい雰囲気で演出がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2日と決めているが、他の日であっても必要に応じシャワー浴、足浴など随時できる。入浴の順番でトラブルことが無いよう注意している。入浴嫌いの人へ気持ちよく入浴してもらう為、言葉かけ対応を工夫したり、曜日の変更をするなど柔軟な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は生活の中で、カレンダーめくり、洗濯干し、洗濯たたみ、掃除、お盆拭きなど張り合いになる役割を持っている。散歩、歌う、季節の行事参加、おしゃれ、花づくりなどの楽しい支援をしていて、それが気晴らしにもつながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分に合わせ散歩する。他のユニットに出かける。買い物、ドライブと日常的に出かけ支援している。2階の人は階段を職員が付き添い支援している。庭にベンチを置き、少し離れた駐車場にもベンチを置くなど外に出かけた時の休憩場所が確保されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者に特別問題が無い限り、日常玄関に鍵はかけていない。職員は、外出したい人のサインをキャッチしている。出口の近くにはいつも職員が居るような間取りである。万一出かけても周辺は農地で、人家は少なく近隣の人達とは日頃の散歩で顔馴染みになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は4ユニットで年4回（2回は消防署の立会いで）している。職員は夜間想定の訓練により自分なりに火災が発生した場合のシュミレーション(発生場所確認、避難誘導、内線伝達、車椅子移動、濡れタオル）をしている。非常災害の設備点検は保守業者と契約しており、水、食糧備蓄もある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は敷地内にある関連施設の栄養士が作成したものに従っているが、週2日は各ユニットで利用者と職員で好みの献立を作っている。水分確保は毎食の汁物と1日の飲み物で最低1～1.3リットル摂取するよう配慮している。食事、水分量とも摂取量をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは建物の間取りはそれぞれ違うが、おひなさま、水仙の花等季節を感じる飾りがある。個室の入り口やトイレをわかり易くしたり、畳の間や椅子を置くなどくつろげる居場所もある。管理者は一人ひとりの動き方を見て、この場所に手すりがあったら一人で動けると思えば使い易いようにいろいろと工夫されている。換気、温度、湿度の管理も行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人持込のタンス、座布団、写真、テレビ、絵画、仏壇、テーブル、ポータブルトイレ等あり、それぞれの個性あるその人らしさの分かる部屋である。		